

大学間単位互換 e ラーニング授業の課題と展望

Reviews and Prospects on Interuniversity Credit Transfer e-Learning Activities

阿部 一晴^{*1}, 馬渡 明^{*2}, 福廣 張順^{*2}
 Issei ABE^{*1}, Akira MAWATARI^{*2}, Harunobu FUKUHIRO^{*2}

^{*1} 京都光華女子大学 キャリア形成学部

^{*2} 公益財団法人大学コンソーシアム京都 教育事業部

Email: i_abe@koka.ac.jp

あらまし: 大学コンソーシアム京都における大学間連携主要事業に、加盟大学等による単位互換がある。2011年度からはコンソーシアム加盟校全体を対象とした e ラーニング授業の提供を開始した。しかし、ここ数年単位互換事業に対する期待や環境等も変化しており、2018年度末で一旦これまでの e ラーニングの取り組みを終了した。これまでの大学間連携の教育事業における e ラーニング授業のまとめと今後の展望等について報告する。

キーワード: 単位互換授業, 大学間連携, コンソーシアム, e ラーニング

1. はじめに

大学コンソーシアム京都は、1998年3月に文部大臣(当時)より財団法人(2010年より公益財団法人に移行)としての設立認可を受けた。法人格を持つ大学コンソーシアムとして、全国最大規模の事業を展開している。この中でも加盟大学相互の単位互換事業は、財団の前身である「京都・大学センター」設立当初に開始された中核事業である。提供科目数も減少してはいるが、現在も400科目前後で推移している。ピーク時は年間のべ10,000名を超える受講者があったが、ここ数年受講者数は縮小傾向にある。

また、2011年度から、一部加盟大学の文科省「戦略的大学連携支援事業」での取り組みを発展・拡大した e ラーニングによる単位互換授業の提供が加わった。しかし、単位互換制度そのものを取り巻く環境の変化等から一定の役割は終了したと判断し、e ラーニング科目に関しては2018年度末を以て、その提供を終了した。

2. 単位互換事業の概要

大学コンソーシアム京都が実施している単位互換事業は、他大学が開講する科目を履修し、修得した単位が所属大学の単位として認定される制度である。この単位互換事業には、約50大学・短期大学が単位互換包括協定を締結し、毎年400~450科目前後を提供している。受講者数は、ピークであった2001年度にのべ14,000名を超える出願、10,000名を超える受講があった。

表1: 単位互換事業の推移(2009~2018年度)

年度	協定大学	提供大学	提供科目	出願者	履修者	単位修得者	単位修得率
2009	46	44	504	7,804	6,899	4,051	58.7%
2010	48	45	531	6,464	5,932	3,585	60.4%
2011	49	47	561	6,030	5,643	3,338	59.2%
2012	51	45	551	6,055	5,601	3,378	60.3%
2013	50	46	540	5,754	4,952	2,999	60.6%
2014	48	44	516	5,287	4,702	2,804	59.6%
2015	48	43	539	3,615	3,412	1,699	49.8%
2016	48	41	457	3,369	3,120	1,912	61.3%
2017	46	40	435	2,549	2,400	1,447	60.3%
2018	45	40	427	1,984	1,842		0.0%

ここ数年の推移を見てみると、2015年度は589科目提供し3,412名が受講、2016年度は提供科目数が457科目と大きく減少したものの3,120名の受講があった。2017年度は435科目を提供し2,400名が受講、2018年度も427科目を提供したが、受講者数は1,842名とこれまでより大幅に減少した。全体の受講者数はここ数年減少しているが、提供科目数、受講者数ともに、現在も大学間の単位互換制度としては日本最大規模を維持している。

3. e ラーニング出願者数・提供科目数の推移

2011年度に正式な単位互換事業として包括協定をしている約50の大学・短期大学全体を受講対象として以来、これまでにのべ103科目の e ラーニング科目の提供をおこなった。

表2: e ラーニング科目の推移(2011~2018年度)

年度	提供大学	提供科目	出願者	履修者	eラーニング比率(出願)	eラーニング比率(履修)
2011	8	14	507	507	8.4%	9.0%
2012	8	14	784	771	12.9%	13.8%
2013	8	17	974	905	16.9%	18.3%
2014	7	15	753	749	14.2%	15.9%
2015	7	15	695	694	19.2%	20.3%
2016	7	13	567	567	16.8%	18.2%
2017	5	9	297	297	11.7%	12.4%
2018	2	5	125	125	6.3%	6.8%

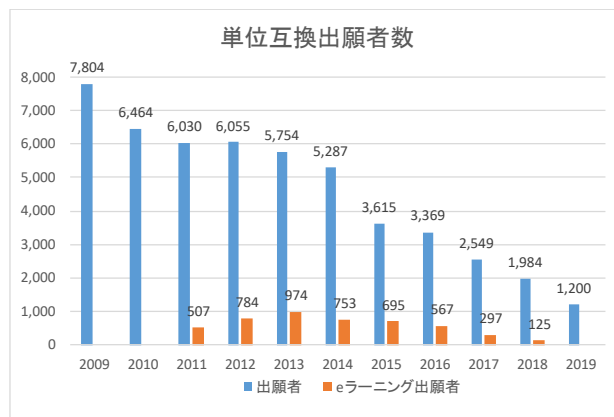


図1: 単位互換出願者数推移

表2・図1に示すとおり、ここ数年単位互換事業全体およびeラーニング科目への出願者数・受講者数が大幅に減少していることが分かる。受講者数全体に占めるeラーニングの割合も一時相対的に拡大し、その役割がある意味重要になってきていたが、提供科目数の減少もあり2015年度の約20%をピークに単位互換全体に於けるeラーニング科目受講率も大きく減少している。

この間eラーニングによる提供科目数は、2011年度・2012年度14科目、2013年度17科目、2014年度16科目、2015年度15科目、2016年度13科目、2017年度9科目となっている。これまでの提供科目と受講者数は表3のとおりであり、8年間にのべ4,757名の受講があった。

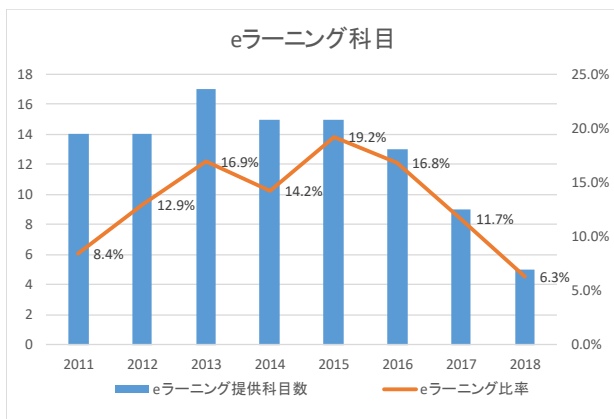


図2：eラーニング提供科目数の推移

表3：eラーニング提供科目・受講者数

科目名	開講大学名	受講者数
eビジネス論	京都光華女子大学	67
インド仏教史	京都文教短期大学	16
キャリア形成論	京都文教短期大学	165
コミュニケーション論	京都文教短期大学	856
コンピューティングファンダメンタルズ	京都光華女子大学	170
リビングオンライン	京都光華女子大学	91
京都学：京都の食文化を知る	京都ノートルダム女子大学	542
経営情報論	京都光華女子大学	224
経営情報論a	京都光華女子大学	101
経営情報論b	京都光華女子大学	104
自然と観光	京都嵯峨芸術大学	135
消費者取引と大学生	京都産業大学	85
消費者取引と大学生～理論と実際の対策～	京都産業大学	133
情報科学	明治国際医療大学	362
情報処理技術	京都学園大学	314
数の理解	京都光華女子大学短期大学部	325
統計学(社会現象をデータで理解する)	京都女子大学	197
特別講座科目2「仏教のこころー真実と教いー」	京都女子大学	18
特別講座科目4「仏教のこころー真実と教いー」	京都女子大学	160
日本史特殊1B「京都の近代」	京都女子大学	152
日本伝統文化論：雅楽はどこからきたのか	京都ノートルダム女子大学	29
仏教の人間観Ⅰ	京都光華女子大学	1
仏教学入門	京都文教短期大学	81
文学専攻をよむ『小説第一人』の巻頭一語論と研究の思いをよみかえて	京都文教短期大学	429
総計		4757

授業ごとの受講者数も、科目によって数名から200名弱と幅がある。また、科目内容もある意味多岐に渡っていると言えないこともないが、前身となった戦略的大学連携事業時に掲げた「教養教育の共有共有化」という目的には少し遠いというのが実状と言わざるを得ない。

4. 単位互換eラーニング事業の終結

単位互換eラーニング科目は、前述のとおりこれ

まで多くの学生が受講した実績がある。しかし、科目開設や運営のための人的負担や設備・機材の維持、更新等の経費負担も重いものとなっていた。

eラーニング科目の提供は、2008年度からの文科省「戦略的大学連携支援事業」としての採択が基になっており、その事業趣旨に鑑み、長期的な視点で取り組んできたが、大学コンソーシアム京都の「第4ステージプラン(2014～2018年度中期計画)」において、事業コストの問題からサーバー保守期限を踏まえた事業継続について判断が必要となっていた。事業開始から10年にあたる2018年度一つの区切りとし、2016年度以降の新規科目の開設を停止し、経過措置として2018年度までの事業継続を行うことを、単位互換事業・生涯教育事業等を所管する教育事業企画検討委員会で決定した。この決定に従い、予定どおり2018年度末を以て、大学コンソーシアム京都における10年間にわたる単位互換eラーニング事業を一旦終結した。

ただし、eラーニング提供プラットフォームの中核であるmoodleは、通常の単位互換・生涯学習事業におけるレポート提出、資料配布、受講者への連絡、小テスト等でも使用されており、これらの機能を今後も維持するためにはソフトウェアのバージョンアップ、ハードウェアの更新等を継続していく必要がある。結果的にこれらをどうするかは2019年度以降に先送りになってしまったが、早急な検討と対応が迫られている。

5. まとめ

これまで約10年間にわたり取り組んできた大学コンソーシアム京都におけるeラーニングは、役割を終えることになった。今後は、大学に求められる教育機能や各大学の教育目標との関係で、どのような単位互換科目が必要か、またどのような単位互換制度等の仕組みが必要かを絶えず評価、改善し、大学コンソーシアム京都としての特色ある単位互換事業のあり方を検討する中で、eラーニングなど新たなICT技術を活用したシステムの構築を含む様々な可能性を議論することが必要であると考えている。本件については、2019年度から始まる大学コンソーシアム京都の「第5ステージプラン(2019～2023年度中期計画)」の中で具体的に検討していくことが決定されている。

参考文献

- (1) 阿部一晴, 馬渡明, 福廣張順: “大学間単位互換eラーニング授業10年間の取り組み”, 教育システム情報学会, 第43回全国大会講演論文集, pp.67-68, (2018)
- (2) 阿部一晴, 馬渡明, 福廣張順, 後藤充弘: “eラーニングから見た大学間単位互換事業の課題”, 教育システム情報学会, 第42回全国大会講演論文集, pp.407-408, (2017)
- (3) 公益財団法人大学コンソーシアム京都, <http://www.consortium.or.jp/> (2019)
- (4) e京都ラーニング, <https://el.consortium.or.jp/> (2019)